



日本デジタル教科書学会第6回年次大会（東京大会）御礼

2017年8月19日（土）と20日（日）の両日、青山学院大学青山キャンパスにて、第6回年次大会が開催されました。およそ140名の方のご参加をいただきました。ご参加いただいた方に、心よりお礼を申し上げます。

夏休み中の青山キャンパスはいろいろな制約があり、ご不便を感じられることも多かったと思います。お詫び申し上げます。特に、車両入構の制限が厳しく、協賛企業の方には大荷物の搬入・搬出でお手数をおかけしてしまいました。

会場での基調講演、研究発表、企業プレゼンテーション、ポスター発表、ワークショップ、セミナーは、マイクの調子が悪いといった小さなトラブルはあったものの、全体としては無事に終わることができました。

ご発表いただいた研究に対しては、有益な議論やコメントがなされたことと思います。研究としてのまとまりができましたら、ぜひとも学会誌『デジタル教科書研究』にご投稿ください。

大会実行委員会および、学会事務局の先生方には、多大なご協力をいただきました。最後になってしまいましたが、厚く御礼申し上げます。



寺尾 敦 大会実行委員長

大会実行委員長 寺尾 敦

基調講演

文部科学省 初等中等教育局視学官
生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長
安彦 広斉 様（右写真の左）

日本学生支援機構 政策企画部長
（前 総務省 情報流通行政局 情報通信利用促進課長）
御厩 祐司 様（右写真の右）



第6回年次大会 若手優秀賞及び若手奨励賞受賞者

若手優秀賞 佐々木 綾菜 氏（早稲田大学）前列中央
若手奨励賞 浅水 智也 氏（宮城教育大学附属中学校）前列右
楠 敬太 氏（大阪大学）前列左



日本デジタル教科書学会 会長退任のご報告

この度の総会で組織改編を行い、立ち上げから5年間務めた会長を退任いたしました。そして、後任に富山大学の長谷川春生先生を理事会の総意としてご推薦し、総会で承認され、2代目会長に就任いただきました。この5年間、皆様のお陰で学会も大きく成長しました。質の高い査読付きの論文誌が、毎年出るようになりました。「J-STAGE」で、学会論文や発表予稿集が公開できるようになりました。6回目となる今回の年次大会には、文部科学省の後援をいただきました。基調講演に、文部科学省・総務省からお越しいただけるまでになりました。学会のこれまでの実績が評価され、基盤が厚く安定したものになったからだと思います。確固たる基盤ができたこの時期にこそ、会長と役員体制を変えるタイミングと思い、このような決断をいたしました。今後、長谷川会長のリーダーシップの下、更なる発展がなされると確信しています。当日、総会と懇親会ではお礼を申し上げましたが、直接お会いできていない皆様方にも、この場を借りて、心よりお礼を申し上げます。これまでのご支援・ご指導、大変ありがとうございました。なお、すっきりと全ての任を解かせていただこうとも思ったのですが、長谷川新会長の要請により、今後は、広報と組織担当の副会長として、下支えをさせていただくこととなりました。今後も、志を共にする皆様と共に、子どもたちの未来のために、この学会の果たす役割の一旦を担わせていただきたいと思います。以上、簡単ですが、ご報告とお礼を述べさせていただきます。今後とも、日本デジタル教科書学会をどうぞよろしくお願いいたします。



片山 敏郎

日本デジタル教科書学会 会長就任のご挨拶

このたび、片山敏郎先生から会長を引き継ぐこととなりました。日本デジタル教科書学会は設立6年目となり、8月19日、20日に青山学院大学で開催された第6回年次大会も素晴らしい大会となりました。学会設立から今まで、会長として本学会の基盤を築かれた片山先生の方針を引き継ぎ、微力ではございますが、本学会のさらなる発展のために一生懸命に努力していきたいと考えております。

本学会は、デジタル教科書・教材等の活用に関わる実践や研究を通して、教育に貢献することを主な目的としていますが、現在、実践や研究の分野は非常に広いものとなっています。第6回年次大会のテーマは、「主体的・対話的で深い学びとICT活用」であり、大会での研究発表内容も、デジタル教科書に関わるものだけでなく、ICT活用、プログラミング教育、ビッグデータの可能性というように幅広いものとなっています。

また、小・中・高等学校、特別支援学校等の教育現場の教員が多く参加していることも本学会の特徴です。教育現場の教員同士による実践や研究成果の共有の場として、そして、教育現場の教員と大学等の研究者との実践や研究成果の共有の場として、大きな役割を果たしています。このように、教育現場に近い学会でありながら、学術論文誌も定期的に刊行され、2017年からはJ-STAGEにも登録されるなど、研究成果の発信も積極的に進めています。

本学会には、学会員による研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成の制度もあります。これは、教育現場の教員と大学等の研究者が協力し、それぞれの知見を生かした研究を進めることをサポートするために作られた制度です。また、研究会開催助成の制度もあります。これは、会員の関心やニーズに応じて自主的に行う研究会を本学会主催の研究会として位置付け、研究委員会や事務局でその実施をサポートする制度です。このような制度を会員の皆様の主体的な研究のために今まで以上に活用していただきたいと思います。

このように今までに築かれてきた学会のよさや制度をこれからも大切にしながら、より充実させていきたいと考え



ています。さっそく会員の皆様からは、研究や研究会のさらなる充実、そして学会の運営についての建設的なアイデアをいただいております。今まで築かれてきた学会の基盤をしっかりと維持しながらも、会員の皆様からのご意見を基にさらに発展ができるように努力していきたいと考えております。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

なお、第7回年次大会は富山で開催予定です。北陸新幹線も便利です。自然豊かで「きとぎと」な富山にぜひお越しください。お待ちしております。

長谷川 春生

【日本デジタル教科書学会第7回年次大会（富山大会）（予定）】
 期 日 2018年8月18日（土）19日（日）
 会 場 富山大学人間発達科学部（富山市五福3190）

役員・委員会新体制のご報告

2017年8月18日に開催されました理事会におきまして、役員改選に伴う新体制が決定し、翌日の総会において承認されました。以下にご報告をさせていただきます。

平成29年度委員会・役員（それぞれ50音順）

会 長		長谷川 春生（富山大学大学院教職実践開発研究科）
副 会 長	広報・組織担当	片山 敏郎（新潟市立新潟小学校，新潟県小学校教育研究会事務局）
	研究・編集担当	島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）
	財政・渉外担当	山田 秀哉（札幌市立発寒西小学校）
研究委員会	委 員 長	広瀬 一弥（亀岡市立東別院小学校）
	副委員長	佐藤 和紀（常葉大学教育学部）
		眞壁 豊（東北文教大学）
	委 員	内田 明（佐賀市立若楠小学校）
		杉本 真樹（国際医療福祉大学大学院）
		竹中 章勝（青山学院大学客員研究員，幾中央大学客員研究員）
		松下 慶太（実践女子大学）
編集委員会	委 員 長	島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）
	副委員長	坂田 陽子（愛知淑徳大学）
	委 員	市原 靖士（大分大学教育福祉科学部）
		寺尾 敦（青山学院大学）
		森下 孟（信州大学学術研究院教育学系）
広報委員会	委 員 長	水越 綾（杉野服飾大学短期大学部）
	副委員長	稲田 健実（福島県立平支援学校）



委員 一戸 信哉 (敬和学園大学)
 加藤 悦雄 (北海道北広島市立双葉小学校)
 反田 任 (同志社中学校・高等学校)
 平本 将司 (広島市三滝少年自然の家)
 足立 賢治 (島根県情報教育研究会)

事務局 事務局長 久富 望 (京都大学情報学研究科博士後期課程)
 副事務局長 大関 正人 (新潟市立巻北小学校)
 事務局長 岩山 直樹 (富山大学人間発達科学部附属小学校)
 上田 昌史 (京都産業大学)
 大滝 徳久 (新潟市立新潟小学校)
 眞壁 豊 (東北文教大学)
 後藤 正樹 (琉球フィルハーモニック)
 杉山 一郎 (燕市立吉田南小学校)

大会実行委員会 実行委員長 長谷川 春生 (富山大学大学院教職実践開発研究科)
 大会事務局長 岩山 直樹 (富山大学人間発達科学部附属小学校)
 実行委員 朝倉 貴泰 (入善町立ひばり野小学校)
 久富 望 (京都大学情報学研究科博士後期課程)
 島田 英昭 (信州大学学術研究院教育学系)
 水越 綾 (杉野服飾大学短期大学部)

監事 井上 芳郎 (埼玉県立坂戸西高等学校)
 林 俊行 (新潟市立上所小学校)

顧問 岩居 弘樹 (大阪大学)
 上松 恵理子 (武蔵野学院大学)

ICT CONNECT 21 担当

担当顧問 上松 恵理子 (武蔵野学院大学)
 担当理事 高瀬 浩之 (千葉県内公立中学校教諭)





■ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

本学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト (http://js-dt.jp/research_support/) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

■ 研究会開催助成について

本学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイト (http://js-dt.jp/seminar_support/) をご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

■ 学会誌「デジタル教科書研究」への投稿のご案内

学会誌「デジタル教科書研究」は、研究者と実践者の自由な発想に基づき、デジタル教科書・教材等の発展の場として機能することを目的として刊行し、投稿論文の通年募集を行っております。

詳しくは、学会HP (<http://js-dt.jp/学会図書館/学会誌「日本デジタル教科書研究」/>) をご確認ください。デジタル教科書研究およびその周辺領域研究に関わるみなさまの積極的な投稿をお待ちしています。